



## 家族で思い出いっぱい 1泊2日の夏休み「子ども自然塾」

全日程を終えて、共生の森を背景に集合

日遊協が埼玉県嵐山町で行っている里山造成事業「共生の森」(同町大字花見台)で7月28、29日、1泊2日の「第3回子ども自然塾」が開かれた。日遊協会員の家族66人(うち子ども37人)、運営の社会貢献・環境対策委員会から22人、運営協力の嵐山町とNPO法人埼玉森林サポータークラブなどから11人、計99人が参加した。

「共生の森」は今年度が10年の事業計画の最終年度となり、イベントも今回で最終回となった。子どもたちにとっては、森林や昆虫を通して自然を学び、自然環境に興味と親しみを感じた夏休みの2日間だった。

### 昆虫の捕え方学び 夜の草むらで観察

● 28日

1日目の自然塾は同町菅谷、国立女性教育会館で行われた。開会式で知念安光理事(社会貢献・環境対策委員会担当)と埼玉森林サポータークラブ、霜觸(しもふれ)賢会長があいさつした。知念理事は「最近地球温暖化の話をよく聞くと、思います。『共生の森』でいろいろ



森林サポーターから話を聞く



利根川講師が虫の捕え方を講演



国立女性教育会館の草むらで夜の昆虫観察



森林サポーターの手助けで、親子で丸太切り体験

なことを体験して、自然の大切さ、環境を考えることの大切さを学んでください」と述べた。

「夏の虫の生態、捕獲方法」をテーマに、埼玉森林サポータークラブの利根川雅実講師が講演した。昆虫の捕え方として、捕虫網を使つたすくい網法、枝や梢を棒で叩いて甲虫を落とす方法、河原や水辺の石の下やごみの下に住む甲虫などを見つける方法、ジュースや腐肉などを使って捕えるトラップングなどを一つ一つ解説した。

この日は女性教育会館に泊まり、夕食後、子どもたちは夜の昆虫観察で同会館周囲の草むらに出

かけた。

## スギの木を倒した ヒノキは丸太切り

● 29日

2日目は朝食後に「共生の森」へ。6グループに分かれ、森の中を散策して虫や植物を観察し、捕虫網でバッタやトンボやチョウを追いかけた。伐採予定のスギの木にチェーンソーで切れ目を入れ、子供たちがロープで引っ張って倒した。その後、親子でヒノキの丸太(直径最大15cm程度)をのこぎりで切り、切った丸太の木片を2つ以上合わ

せて3kgに近づける「3キロゲーム」に挑戦した。

森の中で遊んでお腹がすいた参加者たちは近くの嵐山花見台工業団地管理センターへ移動、昼食をとった。「3キロゲーム」の成績が発表され、村川堅太郎さんと美玖ちゃん親子が合計3・045kgで優勝した。成績優秀な10組の子供たちが好きな賞品(ぬいぐるみなど)を順番に選んだ。最後にお菓子や産直野菜が配られ、午後2時過ぎに解散した。森での活動中はカンカン照りの蒸し暑さだったが、解散した直後に土砂降りに見舞われた。

### 「3キロゲーム」の2位以下の成績優秀親子チーム

(子どもの名前のみ。敬称略。かっこ内は成績)

- [2位] 大貫月王 (2.94kg)
- [3位] 難波巧樹 (3.07kg)
- [4位] 前田真之介 (3.075kg)
- [5位] 河野柚恵 (3.11kg)
- [6位] 後藤勇成 (3.17kg)
- [7位] 加藤珠季 (2.825kg)
- [8位] 大貫五星 (3.19kg)
- [9位] 鈴木陸空 (2.805kg)
- [10位] 小山詩遙 (2.745kg)

## 里山造りは大成功 来年3月に返還式

「共生の森」は、未来を担う子どもたちに自然の大切さを知ってもらう目的で、2008年11月から始まった日遊協の20周年記念事業。日遊協が同年に埼玉県と締結した「埼玉県森林(もり)づくり協定」に沿い、嵐山町有地約5・5ヘクタールを借りて、10年計画で里山を造成した。計画の前半では会員や業界団体の家族が多数参加してエノキ、カツラ、オオモミジ、ヤマグリ、ナツツバキなど約1000本を植えた。計画の後半は日遊協ボランティア隊、埼玉森林サポータークラブなどによって間伐、下草刈りなどの手入れが続けられてきた。来年3月、嵐山町との間で返還式が行われる。